

CX週間展望(3月14日~)

週間展望(3/14~3/20)

~ WEEKLY FORECAST ~

調査課

菊川 弘之



PHOTO by KIKUKAWA

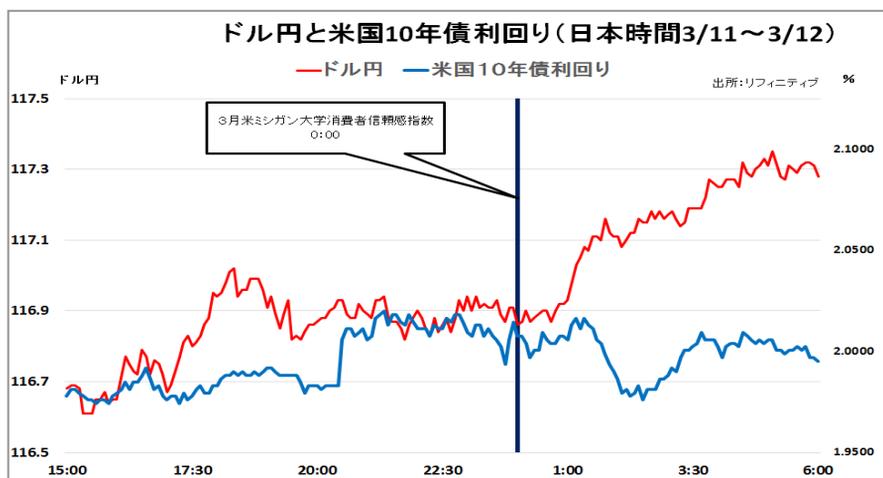
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(3/14~3/20)

~ドル円~

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで《ドル円は、Y字型から三角保合い放れ待ちに移行中》とした。先週は、ウクライナ侵攻を受けてユーロ売りが強まったが、人道回廊が実施されたことや、トルコ仲介のウクライナとロシアの外相会談が持ち上がり、ユーロドルは1.10台回復。ECB理事会では、ウクライナ情勢を受けてタカ派色を緩める可能性も意識されていたが、インフレ圧力の高まりを背景に量的緩和策の縮小を加速する方針を決定。パンデミック緊急購入プログラム(PEPP)は予定通り3月末で終了させ、資産買い入れプログラム(APP)も第3四半期で終了することを決定。今後の利下げ可能性の文言を削除するなど、タカ派色が強い内容だった。

ドル円、保合い上放れ

- ロシアへの経済制裁の影響で原油価格は高騰を続けており、インフレへの警戒感を背景に米長期金利が上昇。2月米消費者物価指数が一段と上昇したことで、ドル買いも強まり、ドル円は1月高値を上抜き、保合い上放れで上げ加速。
- 先週末のドル円は、2017年1月以来、5年2ヶ月ぶりの円安・ドル高水準を付けた。11日に発表された3月の米消費者態度指数(ミシガン大学調べ)は、59.7と前月(62.8)から低下し、市場予想(62.0)も下回った。消費者が予想する1年先のインフレ期待が1981年以来約40年ぶりの水準まで高まっていたこともあり、FOMCで0.25%の利上げを実施し、5月以降も積極的に金融引き締めを続けるとの見方が強まった。
- CFTC建玉明細(3/8現在)によると大口投機玉は、55,856枚の売り越し。前週(68,732枚の売り越し)から縮小。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(3/14~3/20)

~ ドル円 ~

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- ドル円は、三角保合いを上放れて上げ加速。一目均衡表で言う「Y字型」波動の上限を試す流れへ。
- 一方のユーロドルは、3月7日安値を起点に自律反発を入れたものの、2021年5月高値を起点とした下降チャネル内での動きが継続している。3月安値を維持できるか否かが焦点。



基軸通貨体制への挑戦

- 3月のFOMCでの利上げは0.25%にとどまるとみられているが、次回5月のFOMC以降では、0.50%の利上げに動く可能性も出てきそうだ。FRBは、世界的な景気悪化への警戒感が高まる中、物価高騰で難しいかじ取りを迫られる。
- ロシアによるウクライナへの軍事侵攻は激しさを増し、民間人にも多くの犠牲者が出ているが、ウクライナにおける戦闘は、最終局面に近づいている。「人道回廊」を作って民間人を逃がすということは、ウクライナに残るのは最後まで戦い続ける軍人だけとなり、これまで民間人被害を最小限に抑えるというスタンスだったロシア側も、これに対応する。つまり、戦闘が最終局面に入ることになる。
- 自己の保身のために国民を盾にしたゼレンスキー大統領は、英雄視されるべきではなく、今後、非難の対象になっていく。国連憲章を無視し、ウクライナに全面侵攻したロシアの行為は到底是認できるものではないが、残念ながら、この戦争はロシアが勝つことになり、時間経過と共に西側世論の変化も出てくるだろう。
- ゼレンスキーの亡命、もしくは死亡、ウクライナ新政府とロシアの停戦となれば、一気にリスクオンで反応する可能性も。この場合、株式市場は「彼岸底」となる。

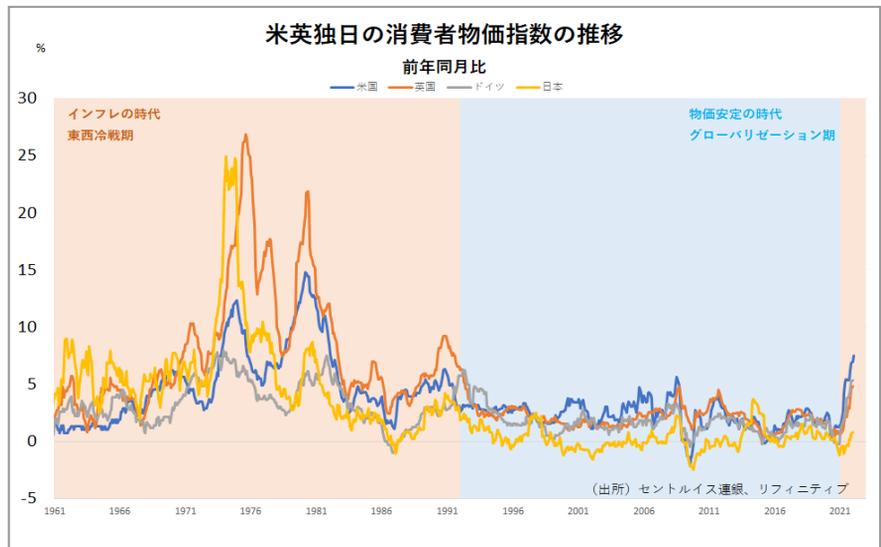
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(3/14~3/20)

～ 貴金属市場 (金：GOLD) ～

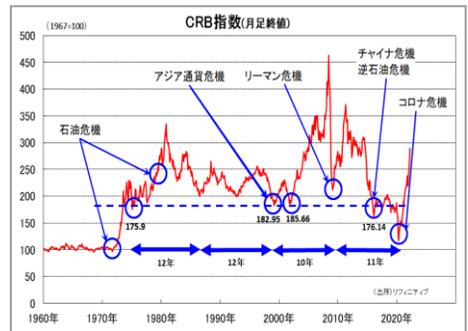
調査課

菊川 弘之



【物価高サイクル入り】

- 商品市場全体の流れを表すCRB指数は、10年～12年前後のサイクル(安値～安値)が確認できる。
- 商品は、金も原油も価格が上昇したからとすぐに増産できるものではない。調査・開発・資金調達・製品化・販売と長い年月が必要であることから生産増で需給が緩むには一定程度の時間が必要である。
- 米ソ冷戦時代は、2度のオイルショックを含め、物価高圧力が強い時代であった。各国のCPI(消費者物価指数)も、変動率が大きかった。
- 1991年12月、旧ソ連の崩壊で冷戦時代は終結。象徴的なベルリンの壁の崩壊(1989年11月)以降、国境の壁は低くなり、安い人件費で作られたモノが西欧諸国で流通。物価下落圧力となった。
- 中国の改革開放政策(1978年～)、社会主義市場経済(1992年～)も、安い労働力を背景とした世界の工場としての地位を形成し、世界の物価押し下げ圧力となった。一方、経済成長と共に近年では、「爆買い」に例えられるような中国による需要増加は、物価の押し上げ要因にもなっている。
- 仮に停戦協議がまとまっても、世界の分断・経済のブロック化は進むと思われる。物価の上振れリスクの高い時代が始まったかもしれない。



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(3/14~3/20)

~ 貴金属市場 (金 : GOLD) ~

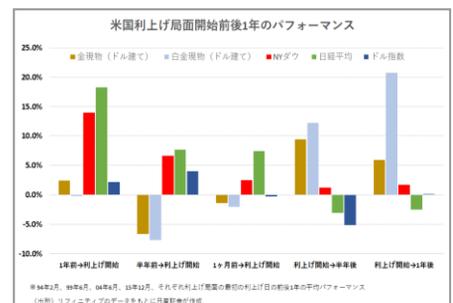
調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- 3月FOMC(15-16日)では、0.25%の金利引き上げが予測されているが、5月FOMC以降の大幅追加金利上げ観測は根強い。
- ただし、インフレ懸念の高まりと共に金利が上がる「悪い金利上昇」なら金の買いは強くなるだろう。



短期調整局面も、押し目は買い優勢に

- 基軸通貨としてのドルの地位は当面、不変であるものの、世界の外貨準備におけるドルのシェアは低下が進む一方、金の保有比率は高まりを見せている。この流れは、今回のロシアによるウクライナ侵攻で加速していきそう。
- 西欧の制裁に伴うロシアによる金売却の動きが一時的に出る可能性はあるものの、ドル離れが顕著な米国との対立が顕著な国々を始めとして、外貨準備における金の保有やユーロの保有を増やす国が売却された金を買集めるだろう。
- NY金(4月限)は、1月安値~3月高値までの上昇に対する38.2%押しを達成。半値押し(1929.7ドル)~61.8%押し(1894.5ドル)は価格帯別出来高の厚い下値支持水準。
- 週足ベースでは、2020年8月高値とのダブルトップが意識されやすい形状となっており、短期的には調整が予想されるが、52週移動平均線乖離率は、過熱感のある原油や、過去の金相場と比較して、落ち着いた水準で、チャート上の底打ちが確認されれば、改めて押し目買いが優勢となるだろう。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(3/14~3/20)

~ 貴金属市場 (白金 : Platinum) ~

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで「金と共に2月24日の上ヒゲ高値を試す流れ。(JPX白金は)価格帯別出来高の厚い200日移動平均線が下値支持帯に変化するのか、これまで通り、上値抵抗として機能するのかが焦点。」としたが、先週のNY白金(4月限)は、2月高値を上抜き上げ加速したものの、金や原油同様、「踏んだら終い」で、週後半にかけて調整入りとなった。
- NY原油、アラブ首長国連邦(UAE)が石油輸出国機構(OPEC)に原油増産を検討するよう働き掛けるとしたことをきっかけに急反落した。またロシア軍は一般市民が避難できるよう、人道回廊を設置し、一時的に交戦を停止した。ウクライナのゼレンスキー大統領がインタビュー発言で、北大西洋条約機構(NATO)加盟を主張しないと述べたことに加え、一定の譲歩をする用意があるとし、ロシア側にも妥協を呼び掛け、停戦期待が出たことも圧迫要因になった。

海外安を円安が相殺

- JPX白金は、海外安を円安が相殺して、200日移動平均線水準での保合いとなった。
- 先週のNY白金(4月限)は、続落。時間外取引では、金の下落につれ安となり、20ドルを超える下落で推移。日中取引では、金が下げ幅を縮小したことで下値を切り上げ、1ヶタ安まで戻した。
- CFTC建玉明細(3/8現在)によると大口投機玉は、25,833枚の買い越し。前週(16,890枚の買い越し)から拡大。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(3/14~3/20)

~ 貴金属市場(白金: Platinum) ~

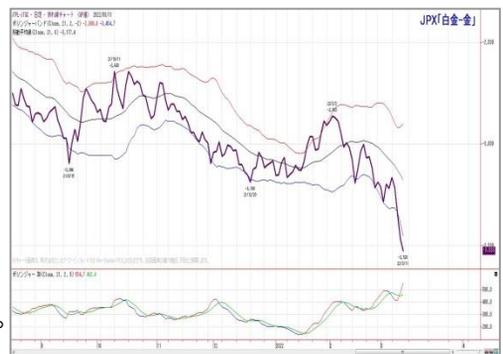
調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

■ ボリンジャーバンドでは、「白金-金」の鞘は、「金買い・白金売り」継続。中心線(21MA)を上値抵抗帯として、バンドウォーク継続。%Bのクロスと共に下放れており、順張り型の動きとなっている。-2σを超えて推移しており、自律反発(鞘調整)が入る可能性があるものの、「金買い・白金売り」のトレンドは、変わらない。変わるとすれば、停戦合意を受けての株高が起きた場合?



供給過剰縮小予想(WPIC)

■ ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル(WPIC)四半期報告によると、2021年のプラチナは38トンの供給過剰となった。総供給は前年比21%増加、総需要は同9%減少。新型コロナウイルス関連の要因および事業の混乱が目立ち、供給と需要の両方に大きな影響を与えた。大半のセクターで需要は堅調に成長したが、未処理だった半完成品の原材料の処理が加速したことによって生産が急増し、供給が高水準になった。

■ またニューヨーク証券取引所(NYMEX)在庫の減少、ETF(上場投信)の需要減少も重なった。2022年はこうした問題が正常化するにつれ、需要は16トン増加し、供給は2トン減少するため、20トンの供給過剰予想。ポール・ウィルソンCEOは、ロシアによるウクライナ侵攻については、現時点では影響を予測することは困難としたが、ロシアからのパラジウムの供給が停止する早期の兆候があり、プラチナ需要が増加する可能性があるとした。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(3/14~3/20)

~ ゴムRSS3号先物 ~

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで「3月の月間騰落傾向は、12月~2月と比べると、圧倒的に売り優勢の時間帯。タイなどの生産地は、ウィンタリング(落葉期=減産期)の影響から供給がタイトになっているものの、ウィンタリングは、例年4月のソクラン(水祭り)までで、マーケットは減産期明けを先取りすることが、3月の弱気優勢の背景だ。
- 原油価格が一時的に100-110ドル程度の上昇であれば、世界経済は耐えられるとの観測からゴムは原油高に追随する可能性はあるものの、150ドル超になるような状況となった場合は、景気後退や株安を受けて、原油との相関は薄れると思われる。》としたが、先週のRSS3号は、ウクライナ情勢を背景とした原油急騰に加えて、東西の制裁合戦が世界経済活動を鈍らせるとの思惑や、産地のウィンタリング(落葉期=減産期)を背景にしたタイオフアール上昇の一服などが嫌気された。週末にかけて、金や原油が調整に入ったことも一因。
- 1-6番限の鞘は再度フラット化、限月によっては逆鞘化している。
- 全国生ゴム営業倉庫は、2月28日現在11,763トン(前旬比431トン増)。2月下旬の入出庫は入庫928トン、出庫497トン。

【今週見通し・戦略】

- 3月の月間騰落傾向は、12月~2月と比べると、圧倒的に売り優勢の時間帯。昨年は、ウィンタリングを材料とした買いは3月上旬に終了しており、今年も頭打ちした可能性は高い。円安が下値支持要因となっているが、118円台後半~120円は強い抵抗帯。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(3/14~3/20)

~ 穀物市場(大豆・コーン) ~

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで「ウクライナ情勢に加えて、徐々に今年の米国作付動向に市場の関心が移行する」としたが、先週のシカゴ穀物は、堅調推移が継続。大豆はロシア・ウクライナ両国からの食用油供給引き締めまりが警戒されるなかで1650セント水準を下値支持にしての高値圏でもみあいが続いている。コーンは10日に国内では全限月が一代高値を更新。USDA需給報告で、21/22年度の期末在庫率が、前月の10.4%から9.6%に低下した事が囃された。
- 先週末のシカゴ穀物は、大豆は前日の上伸後で修正売りが入り期近が反落、コーンは強気な輸出と小麦高受け総じて続伸。
- CFTC建玉明細(3/8現在)によると大口投機玉は、216,577枚の買い越し。前週(218,907枚の買い越し)から縮小。コーンが498,033枚の買い越し。前週(460,938枚の買い越し)から拡大。
- 週間純輸出成約高(3月3日までの週)

大豆:309万9600トン(事前予想レンジ:70万~150万トン)

コーン:216万6600トン(事前予想レンジ:50万~190万トン)

【今週見通し・戦略】

- 例年「2月安(南米産の収穫期の下げ圧力)」で下落傾向が確認される穀物市場も、小麦中心に大幅高となっており、今年の米国の天候相場は低在庫率の中、上値リスクが高い状況が続く。期末在庫率は、15%が適正水準と言われるが、大豆・コーン共に10%割れで、今年の天候相場を迎える。原油高が一服した後は、穀物市場が波乱の目になりそうだ。国連食糧農業機関(FAO)は11日、ロシアのウクライナ侵攻で「世界の需給ギャップが食料・飼料の国際価格を8~22%押し上げる可能性がある」と指摘している。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(3/14~3/20)

~ 原油市場 (ドバイ原油・CME原油指数) ~

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

高値更新後、調整入り

- 先週レポートで「52週移動平均線との乖離率が2000年以降最高水準となってきた。テクニカル的には、いつ調整が入ってもおかしくない状況。ファンダメンタルズからは、ウクライナ情勢・イラン核協議の行方次第。18日のオプション満期で流れが変わる可能性も。」としたが、先週のNY原油(4月限)は、米国のロシア産原油禁輸に対する報復制裁として、ロシアは天然ガスのパイプラインであるノルドストリーム1の遮断や、レアメタルの輸出禁止の発表などを受けて130.50ドルの高値を付けたあと、フィナンシャル・タイムズ(FT)が9日、「アラブ首長国連邦(UAE)がOPEC加盟国に増産を促している」と報じた。プリンケン米国務長官も9日にUAEが増産に向けた協力姿勢を示していると述べたと伝わり、9日には103.63ドルまで急落。
- 週末のNY原油(4月限)は反発。プーチン大統領がウクライナとの協議で「一定の前向きな動きがあった」との発言が圧迫要因になる場面もあったが、最終段階にあるイラン核合意の復活交渉が一時中断した。ロシアが米欧による制裁が同国とイランとの貿易に影響しないよう保証を求めており、最終局面の協議に影響している。ロシア産原油の供給不足を緩和するとみられるイランの原油輸出再開に不透明感が強まった。
- 悪化するウクライナ情勢に進展がないことや、需給ひっ迫観測も追い風となり、前日の下げ幅を上回る上げ幅を維持し、堅調に引けた。
- 米メーカーフェーズが発表した米国で稼働中の原油掘削装置(リグ)数は前週比8基増の527基。
- CFTC建玉明細(3/8現在)によると大口投機玉は、361,665枚の買い越し。前週(339,041枚の買い越し)から縮小。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

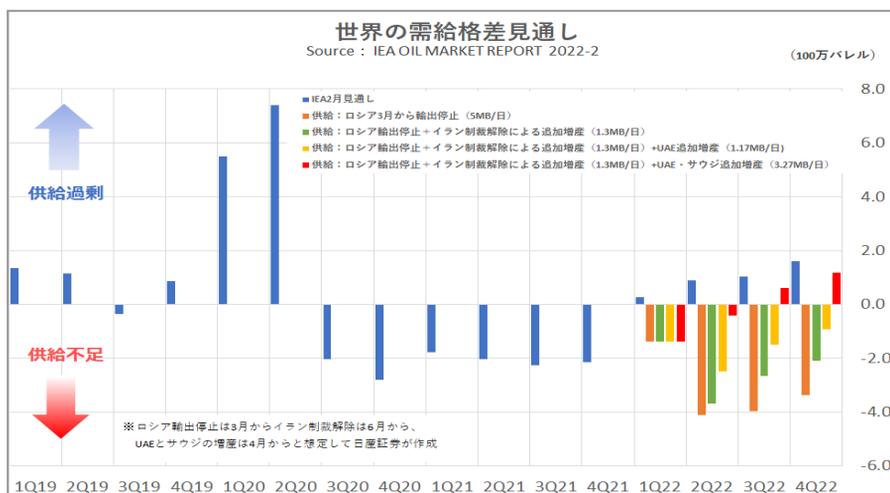
週間展望(3/14~3/20)

~ 原油市場 (ドバイ原油・CME原油指数) ~

調査課

菊川 弘之

【今週見通し・戦略】



■ 2月の国際エネルギー機関(IEA)月報では、年後半に日量80万バレル規模の余剰予測だったが、ロシア輸出が3月から全て途絶えた場合、イラン産原油に加えて、UAEが増産しても、ロシア原油輸出を完全に補うためには、サウジやシェールなど他の生産国の増産が必要で、時間も掛かりそうだ。バルキンドOPEC事務局長は、「(ロシア産の不足分を)埋め合わせる余剰能力は世界にはない」と述べている。

調整後は、夏高か？

■ また、米国とサウジ、UAEの関係性は、バイデン政権になって以降、必ずしも良い訳ではない。サウジのムハンマド皇太子は、反体制記者殺害への関与が示唆され、バイデン米大統領から事実上の国家指導者として待遇するのを拒絶されている。今年1月、イエメンの親イラン勢力であるフーシ派が首都・アブダビに攻撃を仕掛けた後、UAEはバイデン氏にフーシ派をテロリストに再指定するよう要請したものの、米政府はまだ実行していない。湾岸諸国の米国に対する不信任は、30年来の同盟関係にあったエジプトのムバラク政権を当時のオバマ米大統領が最後に見捨てて以来、蓄積されている。イスラム教スンニ派である湾岸諸国にとっては、対立するシーア派のイランによるミサイル開発に米政府が正面から対処しないまま、核合意復帰協議を行っていることも不満要因。湾岸諸国はロシアと多年にわたって良好な関係を築いてきたので、簡単に手のひらを返すことはできない側面もある。

■ 北京パラリンピックも終了し、中国による仲介も期待される。株式市場が「彼岸底」となれば、季節的にはドライブシーズンに向けて、夏高パターンをとりやすい銘柄で、投機的ポジション整理後は、再び押し目は買われそうだ。

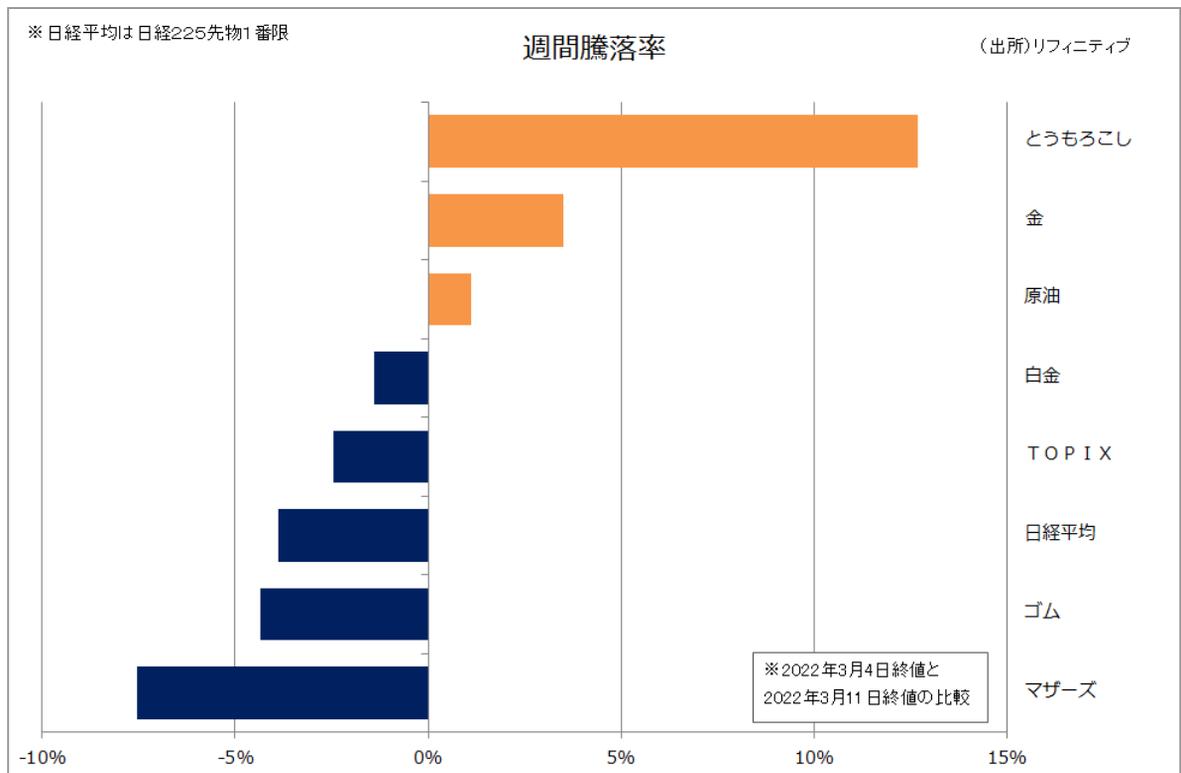
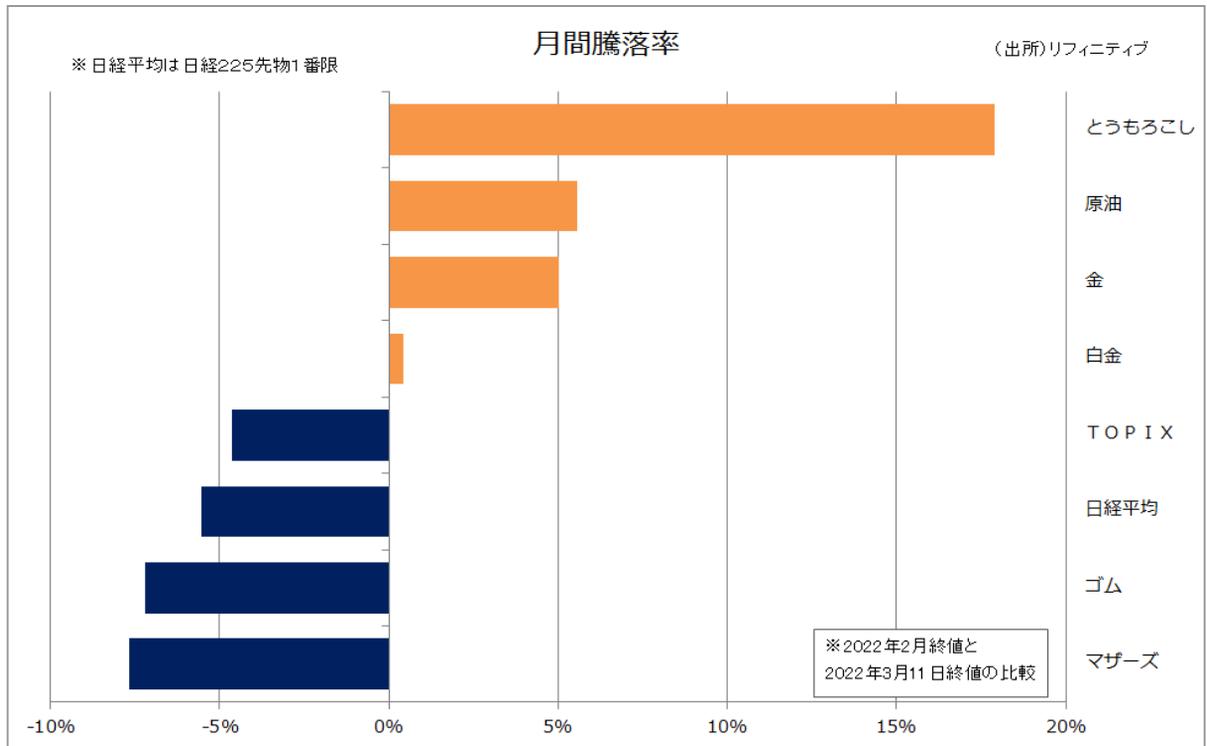
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【週間行事予定(3/14~3/20)】

| 日付 | 時刻 | 国名 | 対象 | 経済指標・行事予定 | 前回 |
|----------|-------|------|-----------|-----------------------------|----------------|
| 3月14日(月) | 納会 | 米国 | --- | シカゴコーン2022年3月限納会 | |
| | 納会 | 米国 | --- | シカゴ大豆2022年3月限納会 | |
| 3月15日(火) | 11:00 | 中国 | 2月 | 固定資産投資(前年比) | 3.120 |
| | 11:00 | 中国 | 2月 | 鉱工業生産(前年比) | 0.670% |
| | 11:00 | 中国 | 2月 | 小売売上高(前年比) | 57,818,423,800 |
| | 16:00 | 英国 | 1月 | 失業率(ILO基準) | -0.2% |
| | 19:00 | ドイツ | 3月 | ZEW 景気期待指数 | -318.732(十億) |
| | 19:00 | ドイツ | 3月 | ZEW 現況指数 | -370.8(十億) |
| | 19:00 | ユーロ圏 | 1月 | 鉱工業生産(前年比) | -427,500(百万) |
| | 20:00 | ユーロ圏 | 2月 | 準備資産総額 | 0.9 |
| | 21:30 | 米国 | 3月 | NY州製造業業況指数 | 4.6% |
| | 21:30 | 米国 | 2月 | 生産者物価指数(PPI)最終需要(前年比) | 0.5% |
| | 21:30 | 米国 | 2月 | 生産者物価指数(PPI)食品・エネルギー除く(前年比) | 161,757.8(千) |
| | --- | --- | --- | OPEC月報 | |
| | 未定 | 米国 | --- | 連邦公開市場委員会(FOMC、~16日) | |
| 3月16日(水) | 8:50 | 日本 | 2月 | 輸出(前年比) | 5.4% |
| | 8:50 | 日本 | 2月 | 輸入(前年比) | -1.4% |
| | 8:50 | 日本 | 2月 | 貿易収支 | |
| | 21:30 | 米国 | 2月 | 輸入物価(前月比) | |
| | 21:30 | 米国 | 2月 | 小売売上高(前月比) | 1,685.7 |
| | 21:30 | 米国 | 2月 | 小売業販売高 | -0.7% |
| | 23:00 | 米国 | 1月 | 企業在庫(前月比) | -2.597(百万) |
| | 23:00 | 米国 | 3月 | NAHB住宅市場指数 | |
| 18:00 | --- | --- | IEA月報 | | |
| 3月17日(木) | 3:00 | 米国 | 3月16日 | FF金利誘導目標 | 1.540(十億) |
| | 3:00 | 米国 | 3月16日 | 連銀超過準備金利 | 15.115(十億) |
| | 8:50 | 日本 | 1月 | 機械受注 船舶・電力除く民需(前年比) | 4.435(十億) |
| | 19:00 | ユーロ圏 | 2月 | EU基準消費者物価指数(HICP)改定値(前年比) | -402.3(十億) |
| | 21:00 | 英国 | 3月 | 英中銀バンクレート | 74 |
| | 21:30 | 米国 | 2月 | 建設許可件数 | 0.840% |
| | 21:30 | 米国 | 2月 | 住宅着工件数 | 0.6% |
| | 21:30 | 米国 | 1月7日,週次 | 新規失業保険申請件数 | 286.43 |
| | 21:30 | 米国 | 1月28日,週次 | 継続失業保険受給総数 | 6.0% |
| | 21:30 | 米国 | 3月 | フィラデルフィア連銀業況指数 | 0.6% |
| | 22:15 | 米国 | 2月 | 鉱工業生産(前月比) | |
| 22:15 | 米国 | 2月 | 設備稼働率 季調値 | | |
| 3月18日(金) | 8:30 | 日本 | 2月 | 全国コア消費者物価指数(CPI)(前年比) | |
| | 8:30 | 日本 | 2月 | 全国消費者物価指数(CPI)総合(前年比) | |
| | 16:00 | 英国 | 2月 | 消費者物価指数(CPI)(前年比) | 5.5 |
| | 16:00 | 英国 | 2月 | 小売物価指数(前年比) | 7.8 |
| | 16:00 | 英国 | 2月 | 小売物価指数 除住宅金利(前年比) | 8 |
| | 23:00 | 米国 | 2月 | 中古住宅販売戸数 | 7.9% |
| | 23:00 | 米国 | 2月 | 中古住宅販売増減率 | 72.04 |
| | 4:30 | 米国 | 前週分 | CFTC連玉明細 | |
| | | 日本 | 3月18日 | 日銀政策金利決定 | |
| 3月19日(土) | | | | | |
| 3月20日(日) | | | | | |

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社へ帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【騰落率(月間・週間)】

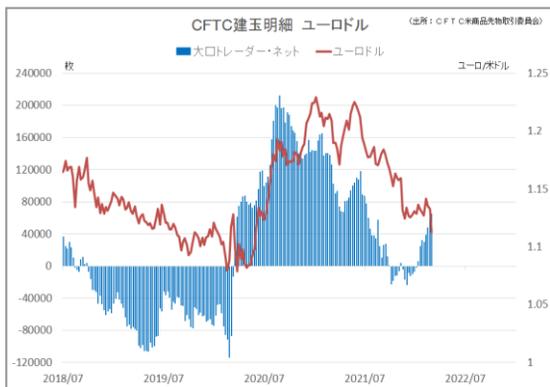


当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に十全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

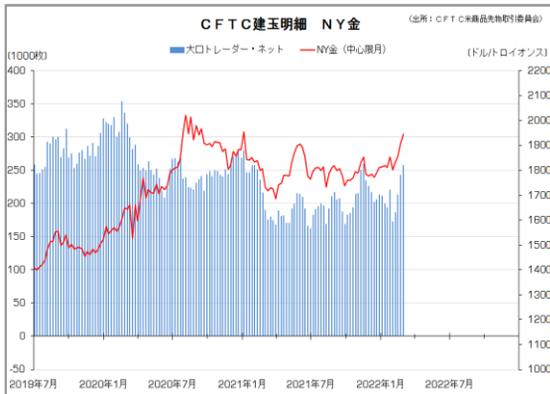
【CFTC建玉明細】



| ドル円 | | | | |
|-----------|--------|---------|----------------------|--------|
| 日付 | 大口投機玉 | | | 終値 |
| | ロング | ショート | 差引枚数 (ロング - ショート) | |
| 2022/2/8 | 15,692 | 74,840 | -59,148 | 115.54 |
| 2022/2/15 | 10,425 | 76,587 | -66,162 | 115.62 |
| 2022/2/22 | 10,976 | 74,163 | -63,187 | 115.08 |
| 2022/3/1 | 14,665 | 83,397 | -68,732 | 114.89 |
| 2022/3/8 | 15,548 | 71,404 | -55,856 | 115.66 |
| 前週比 | 883 | -11,993 | 12,876 | 0.77 |



| ユーロドル | | | | |
|-----------|---------|---------|----------------------|---------|
| 日付 | 大口投機玉 | | | 終値 |
| | ロング | ショート | 差引枚数 (ロング - ショート) | |
| 2022/2/8 | 218,973 | 180,131 | 38,842 | 1.1414 |
| 2022/2/15 | 217,899 | 170,318 | 47,581 | 1.1356 |
| 2022/2/22 | 214,195 | 154,889 | 59,306 | 1.1325 |
| 2022/3/1 | 228,385 | 163,446 | 64,939 | 1.1126 |
| 2022/3/8 | 242,683 | 183,839 | 58,844 | 1.0899 |
| 前週比 | 14,298 | 20,393 | -6,095 | -0.0227 |



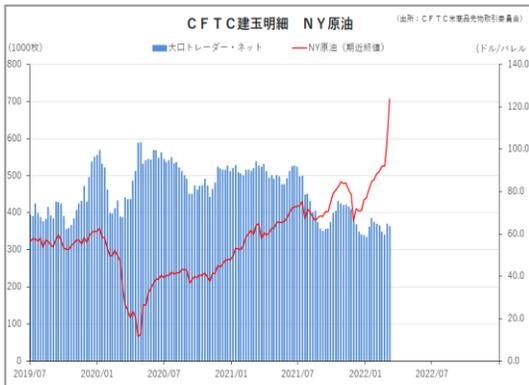
| NY金 | | | | |
|-----------|---------|---------|----------------------|------------|
| 日付 | 大口投機玉 | | | 中心限月 終値 |
| | ロング | ショート | 差引枚数 (ロング - ショート) | |
| 2022/2/8 | 279,559 | 92,853 | 186,706 | 1827.9 |
| 2022/2/15 | 313,269 | 99,656 | 213,613 | 1856.2 |
| 2022/2/22 | 350,096 | 106,948 | 243,148 | 1907.4 |
| 2022/3/1 | 354,177 | 96,555 | 257,622 | 1943.8 |
| 2022/3/8 | 364,618 | 90,230 | 274,388 | 2043.3 |
| 前週比 | 10,441 | -6,325 | 16,766 | 99.5 |



| NY白金 | | | | |
|-----------|--------|--------|----------------------|------------|
| 日付 | 大口投機玉 | | | 中心限月 終値 |
| | ロング | ショート | 差引枚数 (ロング - ショート) | |
| 2022/2/8 | 28,134 | 16,375 | 11,759 | 1036.3 |
| 2022/2/15 | 28,217 | 18,085 | 10,132 | 1020.4 |
| 2022/2/22 | 32,462 | 14,922 | 17,540 | 1086 |
| 2022/3/1 | 33,902 | 17,012 | 16,890 | 1051.9 |
| 2022/3/8 | 41,758 | 15,925 | 25,833 | 1153.2 |
| 前週比 | 7,856 | -1,087 | 8,943 | 101.3 |

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

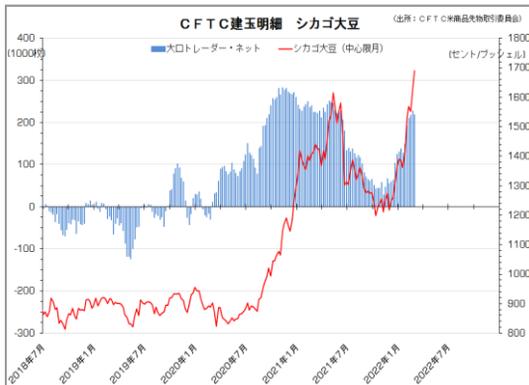
【CFTC建玉明細】



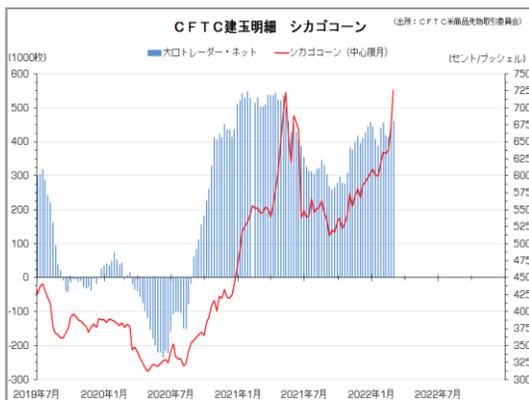
| NY原油 | | | | |
|-----------|---------|---------|----------------------|--------|
| 日付 | 大口投機玉 | | | 期近終値 |
| | ロング | ショート | 差引枚数 (ロング - ショート) | |
| 2022/2/8 | 480,560 | 117,177 | 363,383 | 89.36 |
| 2022/2/15 | 458,819 | 110,726 | 348,093 | 92.07 |
| 2022/2/22 | 442,102 | 103,061 | 339,041 | 91.91 |
| 2022/3/1 | 465,365 | 96,702 | 368,663 | 103.41 |
| 2022/3/8 | 455,339 | 93,674 | 361,665 | 123.7 |
| 前週比 | -10,026 | -3,028 | -6,998 | 20.29 |



| NY暖房油 | | | | |
|-----------|---------|--------|----------------------|--------|
| 日付 | 大口投機玉 | | | 期近終値 |
| | ロング | ショート | 差引枚数 (ロング - ショート) | |
| 2022/2/8 | 59,340 | 52,885 | 6,455 | 2.7926 |
| 2022/2/15 | 58,952 | 54,791 | 4,161 | 2.7643 |
| 2022/2/22 | 59,571 | 52,147 | 7,424 | 2.7905 |
| 2022/3/1 | 51,397 | 43,761 | 7,636 | 3.1511 |
| 2022/3/8 | 38,685 | 45,436 | -6,751 | 4.4373 |
| 前週比 | -12,712 | 1,675 | -14,387 | 1.2862 |



| シカゴ大豆 | | | | |
|-----------|---------|--------|----------------------|------------|
| 日付 | 大口投機玉 | | | 中心限月 終値 |
| | ロング | ショート | 差引枚数 (ロング - ショート) | |
| 2022/2/8 | 255,224 | 45,494 | 209,730 | 1569.00 |
| 2022/2/15 | 261,666 | 44,934 | 216,732 | 1551.25 |
| 2022/2/22 | 274,012 | 47,548 | 226,464 | 1635.00 |
| 2022/3/1 | 264,899 | 45,992 | 218,907 | 1690.00 |
| 2022/3/8 | 263,044 | 46,467 | 216,577 | 1689.75 |
| 前週比 | -1,855 | 475 | -2,330 | -0.25 |



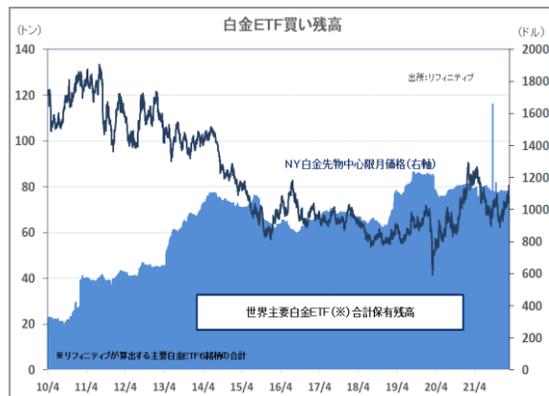
| シカゴコーン | | | | |
|-----------|---------|---------|----------------------|------------|
| 日付 | 大口投機玉 | | | 中心限月 終値 |
| | ロング | ショート | 差引枚数 (ロング - ショート) | |
| 2022/2/8 | 519,855 | 100,253 | 419,602 | 632.25 |
| 2022/2/15 | 510,734 | 96,242 | 414,492 | 638.00 |
| 2022/2/22 | 536,898 | 85,156 | 451,742 | 674.75 |
| 2022/3/1 | 531,633 | 70,695 | 460,938 | 725.75 |
| 2022/3/8 | 558,302 | 60,269 | 498,033 | 753.00 |
| 前週比 | 26,669 | -10,426 | 37,095 | 27.25 |

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【金・白金ETF】

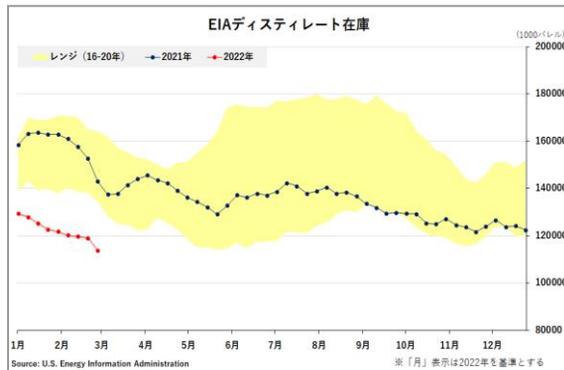
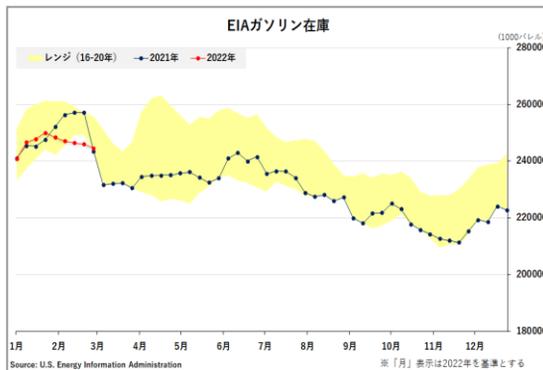
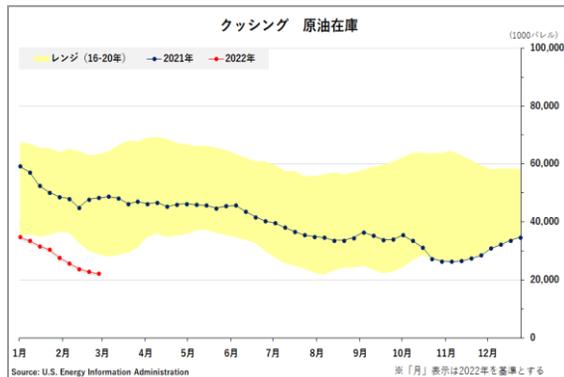
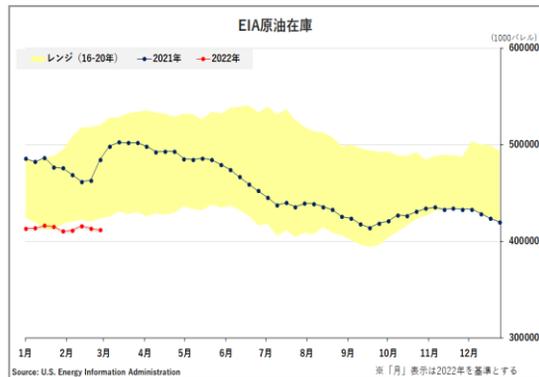


| 日付 | 金保有高(トン) | 前営業日比 |
|-----------|----------|-------|
| 2022/3/11 | 1064.15 | +2.61 |
| 2022/3/10 | 1061.54 | -1.74 |
| 2022/3/9 | 1063.28 | -4.06 |
| 2022/3/8 | 1067.34 | +4.64 |
| 2022/3/7 | 1062.70 | +8.42 |
| 2022/3/4 | 1054.28 | +4.06 |
| 2022/3/3 | 1050.22 | ±0 |



| 日付 | 白金保有高(キログラム) | 前営業日比 |
|-----------|--------------|---------|
| 2022/3/11 | 77,191.42 | -0.12 |
| 2022/3/10 | 77,191.55 | -596.04 |
| 2022/3/9 | 77,787.58 | -0.19 |
| 2022/3/8 | 77,787.77 | -80.65 |
| 2022/3/7 | 77,868.42 | -0.34 |
| 2022/3/4 | 77,868.76 | ±0 |
| 2022/3/3 | 77,868.76 | -116.51 |

【EIA在庫】



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【留意事項】

弊社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等>日産証券株式会社（〒103-0014東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-11）

関東財務局長（金商）第131号金融商品取引業者商品先物取引業者

<加入協会>日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。